

【2024年度】児童発達支援事業所における自己評価総括表(公表)

○事業所名	ハッピーライフあさひ				
○保護者評価実施期間	2024年11月20日 ～2024年12月20日				
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1	(回答者数)	1	
○従業者評価実施期間	2025年1月15日 ～2025年1月31日				
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)	7	
○事業者向け自己評価表作成日	2025年2月10日				

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	チーム連携	毎朝の朝礼や終礼にてチーム全体の共有を行っている。活動時間にはスタッフ配置を意識し、死角を作らないように互いに声掛けを行っている。集団での活動の際にも児童達を包括的に見守り、変化を見落とさないように努めている。	スタッフの中でもリーダーシップを取るスタッフが偏る場合があるため、全員が同じ立場で声をさらに上げられるようにしていきたい。
2	豊富なイベント企画	毎月、スタッフ同士で案を出し合い、児童に経験してほしい事や成長につながるような企画について話し合っている。時間や参加費等も考慮して、家庭的にも参加しやすい様に努めている。	現在も行っているが、交通機関を利用したイベントや他の施設とも連携して子どもたちの地域交流・出会いの場を増やしていきたい。
3	情報共有の場に力を入れている	定期的な面談やヒヤリングなどを必ず行い、家庭や学校等での児童の様子などの共有に努めている。	保護者同士の情報共有を強化したいため、企画の立案や参加しやすい環境を整えていきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	空間の分離	事業所内がワンフロアになっており、空間の分離が難しい。その為、学習の時やパニック等で個別に対応する環境を作る事が難しい。	学習の時には段ボール等で視覚を遮るように工夫をしている。しかし、完全な分離は出来ずに集中がとぎれてしまうことも多い。
2	家族支援についてさらに行動していく	送迎時の情報交換や面談は行っているが、保護者同士の交流の場が少なかったり、性に関する知識や学校卒業後の進路等についても幅広い相談や助言ができればと思う。	保護者同士の交流の場『保護者カフェ』の開催や卒業生アンケートなどを実施することで今後の相談にも備えていきたい。
3	学習支援が弱い	「遊びの中で成長を促す」というコンセプトのもとで活動している為、学習支援に対して弱く、宿題やプリントへの促し、見守り、助言を行っているが個別で対応が出来ない時もある。	全員が合わせて学習の時間を設ける事は難しいが、必要な児童に対しては保護者と相談の上、環境を整えるなど、より良い支援を行いたい。